

2015年の九州沖縄における気象概況

2015年の全国の天候は高温傾向であった。しかし、西日本を中心に夏期から秋期にかけて低温となった時期があり、西日本では冷夏となった。降水量は、西日本では夏期の前線や台風などの影響で年降水量が多かった。東日本太平洋側でも9月に発生した平成27年9月関東・東北豪雨により年降水量は多かった。日照時間は、西日本では夏期の日照時間が少なかったため年間日照時間は少なかった。一方、北および東日本日本海側では春期や秋期に晴れの日が多かったため、年間日照時間は多かった（気象庁、2016）。九州沖縄の2015年の年間の気象、平年値を表1に示した。福岡と佐賀の年平均気温は平年に比べて「高い」となり、それぞれ17.3℃、17.1℃、沖縄では平年に比べて「かなり高い」となり平年より0.5℃高い23.6℃であった。その他の地域では「平年並み」であった。年間の日照時間は平年に比べて少ない地域が多く、大分では平年に比べて「かなり少ない」となり、平年値の91%である1821.7時間であった。年降水量は、沖縄で平年値の70%にあたる1425mmと平年に比べて「かなり少ない」となったが、その他の地域では多く、長崎、宮崎、鹿児島では平年に比べて「かなり多い」となり、特に鹿児島では平年値の162%である3663.5mmに達した（沖縄気象台、2016；鹿児島地方気象台、2016；気象庁、2016；福岡管区気象台、2016）。

九州沖縄における各地の月別の気象データを表1に、福岡、熊本および鹿児島における旬別の各気象要素の推移を図1～3に示した。各月における気象概況について以下に記す（沖縄気象台、2016；鹿児島地方気象台、2016；気象庁、2016；福岡管区気象台、2016）。

1～2月の冬期の気温は、1月は平年に比べて「高い」、「かなり高い」となった地域が多かった。2月は「平年並み」の地域が多かったが、鹿児島では平年に比べて「低い」となった。1月の日照時間は多かったが、特に長崎、宮崎で平年に比べて「かなり多い」となった。九州沖縄の2月の日照時間は少なかった。九州の1月の降水量は多かったが、沖縄では平年に比べて「少ない」となった。2月はいずれの地域も少なかった。

九州沖縄の春期の気温は、いずれの月も平年を上回り「高い」、「かなり高い」となった地域が多かった。日照時間は、3月は平年に比べて多かったが、4月は平年に比べて「かなり少ない」となった地域が多かった。5月はほぼ「平年並み」であった。3月の降水量は九州南部と沖縄で少なかったが、九州北部では「平年並」または「多い」であった。4月は沖縄を除き、平年に比べて「かなり多い」地域が多かった。5月は少なく、特に宮崎では「かなり少ない」であった。さくらの開花は福岡で平年並の3月22日（平年3月23日）、熊本でも平年並みの3月21日（3月23日）、鹿児島では平年より5日早い3月21日（3月26日）であった。

夏期の気温は沖縄を除いて低く推移した。熊本、宮崎、鹿児島の6月、7月の気温

は平年に比べて「かなり低い」となった。九州沖縄の夏期の日照時間も少なく、6月は沖縄を除いて、ほとんどの地域で平年に比べて「かなり少ない」であった。7月も宮崎、鹿児島で「かなり少ない」となった。降水量は九州南部で多く、宮崎、鹿児島の6月の降水量はそれぞれ839.5mm（平年比196%）、1300.5mm（288%）を記録した。

秋期の9月の気温は、沖縄を除いて夏期に続いて低温で推移したが、11月の気温は九州沖縄のいずれの地域も平年に比べて「かなり高い」であった。九州北部および南部の9月の日照時間は、平年に比べて「少ない」となった地域がみられたが、10月は「かなり多い」となり日照に恵まれた。11月の日照は、一変して「かなり少ない」であった。沖縄の秋期の日照時間は多かった。九州北部および南部の秋期の降水量は、9月、10月は「平年並み」となったところが多かったが、大分、宮崎の10月の降水量は「かなり少ない」となった。11月はいずれの地域も多く宮崎、鹿児島では、それぞれ252mm（265%）、183mm（198%）と「かなり多い」となった。沖縄では秋期の降水量は少なく、特に9月は46.5mm（18%）と「かなり少ない」であった。

12月の気温はほとんどの地域で「かなり高い」となった。日照時間は少ない一方で、降水量は多く、大分、宮崎、鹿児島では平年比で300～400%の降水量があった。

九州北部の梅雨入りは平年に比べて3日早い6月2日ごろ（平年6月5日ごろ）、梅雨明けは平年より10日遅い7月29日ごろ（平年7月19日ごろ）、九州南部の梅雨入りは平年並の6月2日ごろ（平年5月31日ごろ）、梅雨明けは平年並の7月14日ごろ（平年7月14日ごろ）、奄美地方では梅雨入りは平年より8日遅い5月19日ごろ（平年5月11日ごろ）、梅雨明けも平年より7日遅い7月6日（平年6月29日）、沖縄地方の梅雨入りは平年に比べて11日遅い5月20日ごろ（平年5月9日）、梅雨明けは平年より15日早い6月8日ごろ（平年6月23日ごろ）であった。

2015年に発生した台風は27個（平年25.6個）で平年並みの発生数であった。日本へ接近した台風は14個（平年11.4個）と平年に比べて多かった。このうち九州北部地方、九州南部地方、奄美地方、沖縄地方へ接近した台風はそれぞれ4個（平年値3.2個）、4個（3.3個）、3個（3.8個）、6個（7.4個）と九州、沖縄奄美へ接近した台風は平年並であった。日本には4個の台風が上陸し、九州へはそのうち台風12号および15号の2個が上陸した。12号は7月26日に佐世保市付近に上陸し、唐津市を通過して日本海へぬけた。15号は8月25日に荒尾市に上陸し、九州を北上し日本海へ抜けた。この台風で熊本では最大瞬間風速41.9m/sを記録した。台風15号の影響で福岡では柿やかんきつなどの果樹に被害が、熊本では栗や梨の果実の落下、ハウスや畜舎の倒壊等の被害が発生した（日本農業新聞、2015年9月8日）

2014年に発生したエルニーニョは本年も継続して発生した（図4）。発生時は、気象に大きな影響を及ぼすことが報告されている。発生時には、九州沖縄の1～3月の気温は低い傾向が、降水量は九州太平洋側で多い傾向が、日照時間は同じく九州太平

洋側で平年並みか少ない傾向があることを、また九州の7～9月の気温は低い傾向が、九州日本海側の降水量は多い傾向が、九州の日照時間は平年並みか少ない傾向があることを報告している（気象庁，2015）。本年の夏期の九州の気温と日照時間については報告と同様の傾向が認められた。本年の水稲の生育期間は低温、日照不足であったため、生育の遅れなどにより平年の収量を下回る県が多かった（九州農政局，2015）。冬期についても気温は高い傾向が見られた。

引用文献

福岡管区気象台（2016）2015年の九州北部地方の天候，1-4.

鹿児島地方気象台（2016）九州南部・奄美地方2015年の気候統計値に関するお知らせ.

気象庁（2015）エルニーニョ現象発生時の日本の天候の特徴，気象庁ホームページ.

気象庁（2016）2015年の日本の天候，1-18.

気象庁地球環境・海洋部（2016）エルニーニョ監視速報（No. 282），1-6.

九州農政局（2015）平成27年産水稲の収穫量（九州），1-17.

日本農業新聞（2015）台風15号で福岡県農業被害15億円超 熊本は被害面積2767ヘクタールに，2015年9月8日日本農業新聞.

沖縄気象台（2016）沖縄地方の天候2015年，1-25.

（生産環境研究領域 農業気象グループ 脇山恭行）

福岡

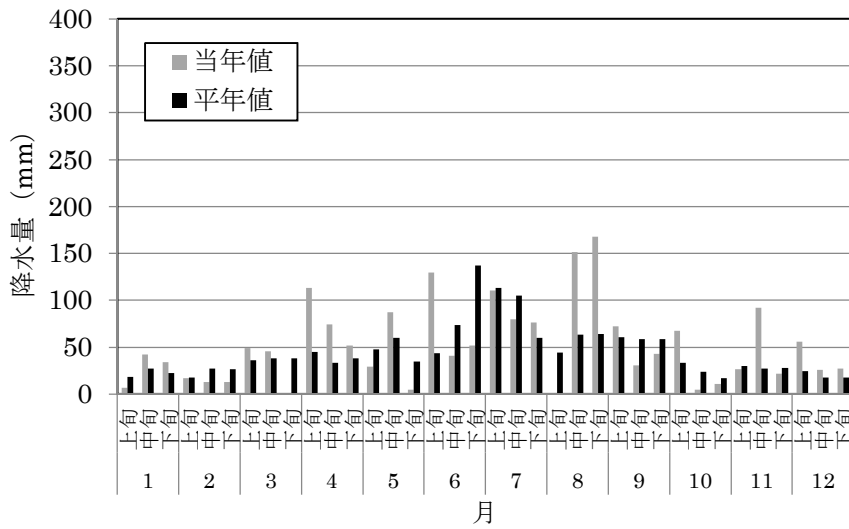
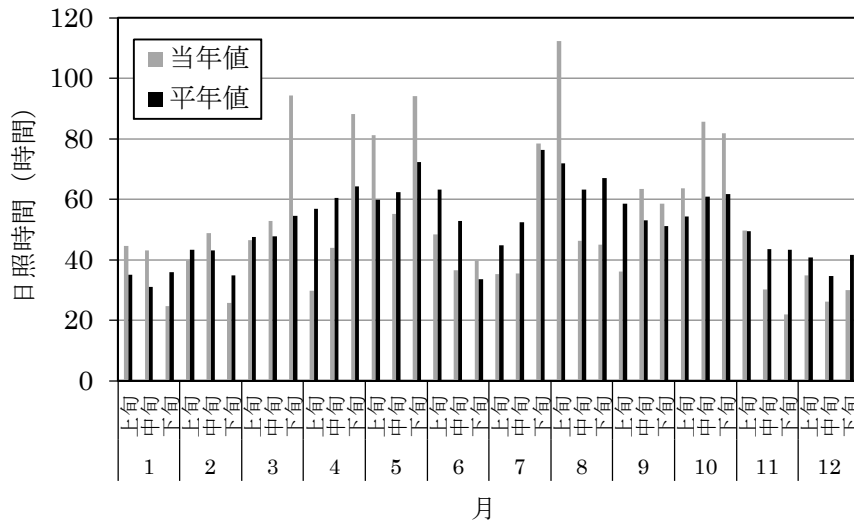
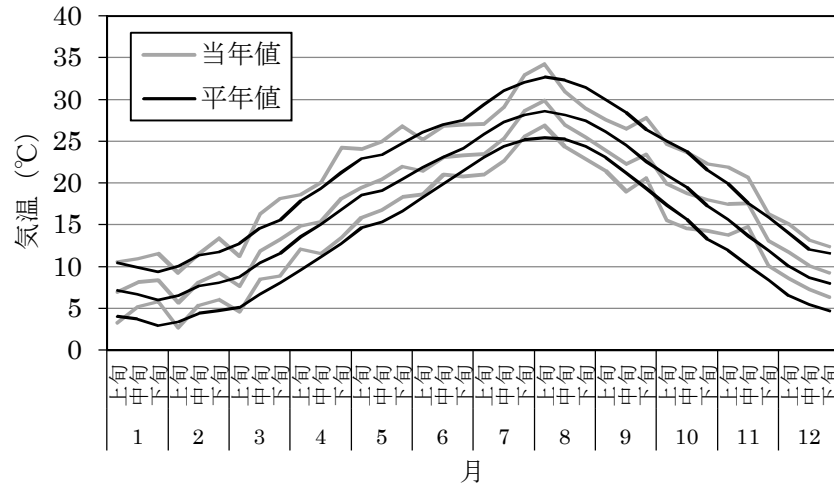


図1 2015年福岡の気象概況

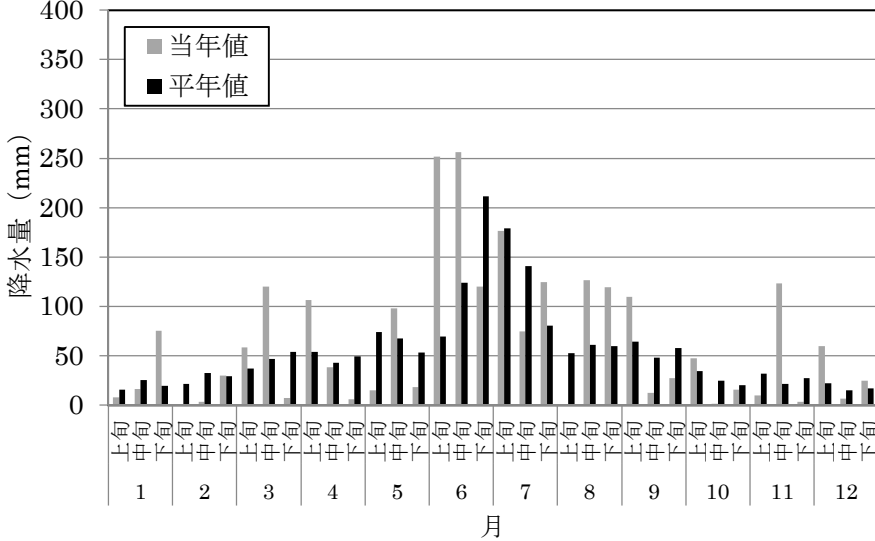
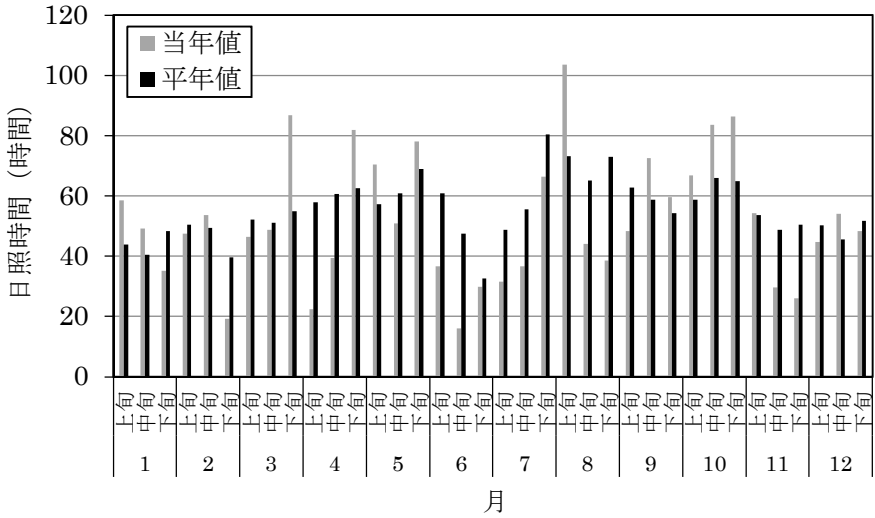
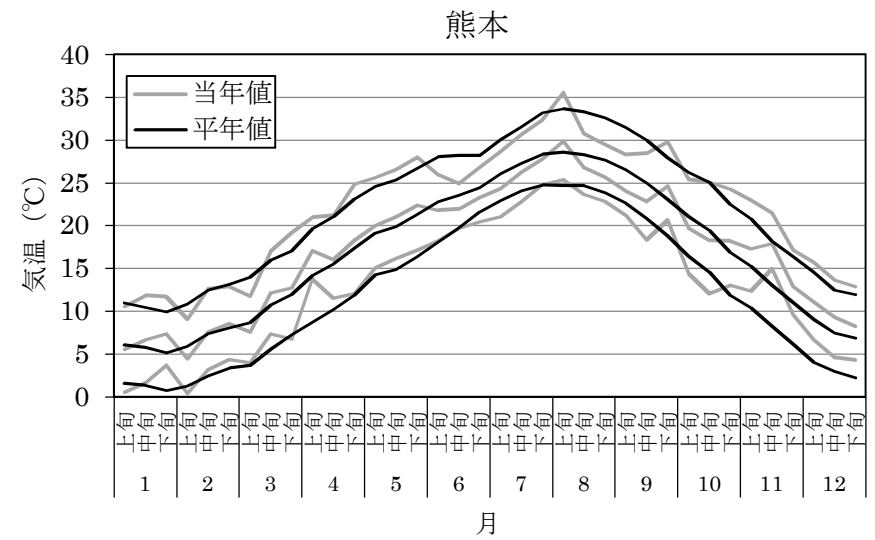


図2 2015年熊本の気象概況

鹿児島

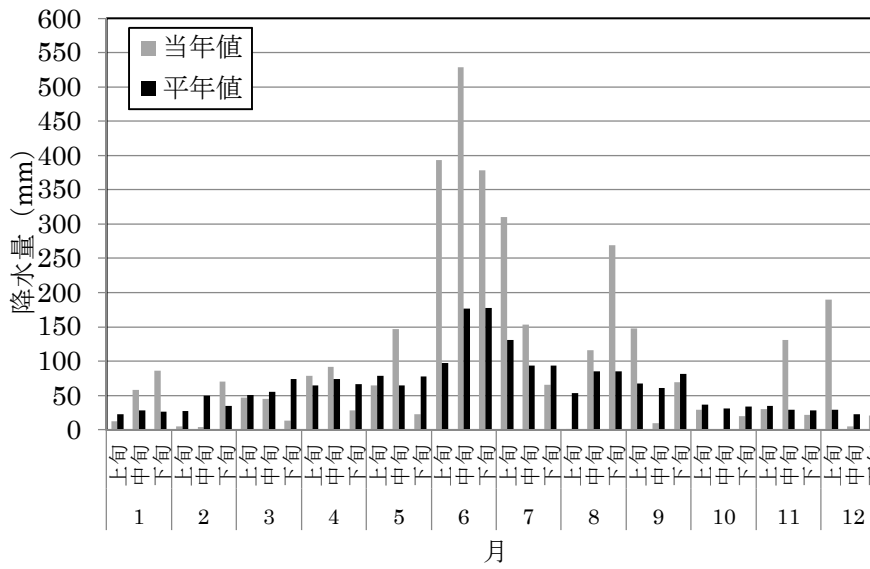
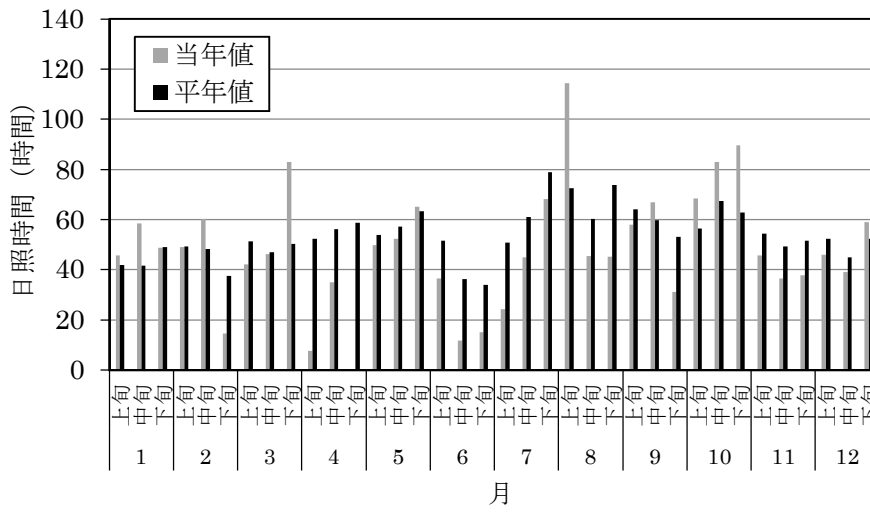
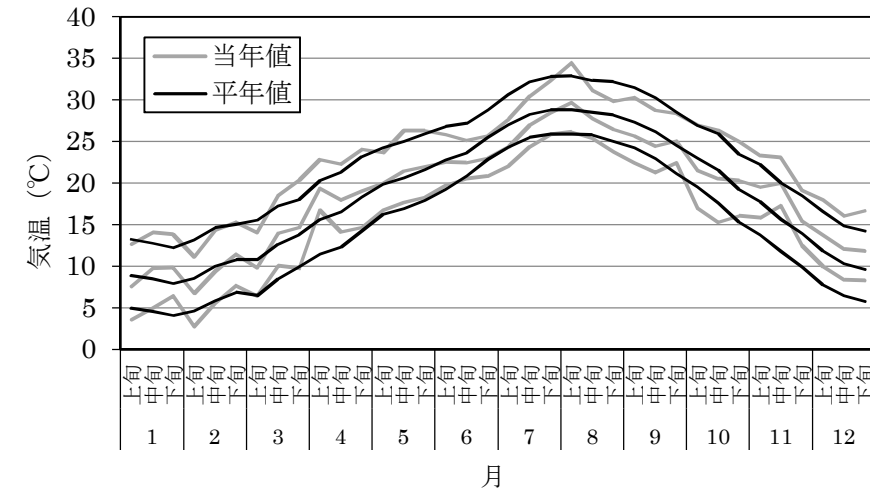


図3 2015年鹿児島県の気象概況

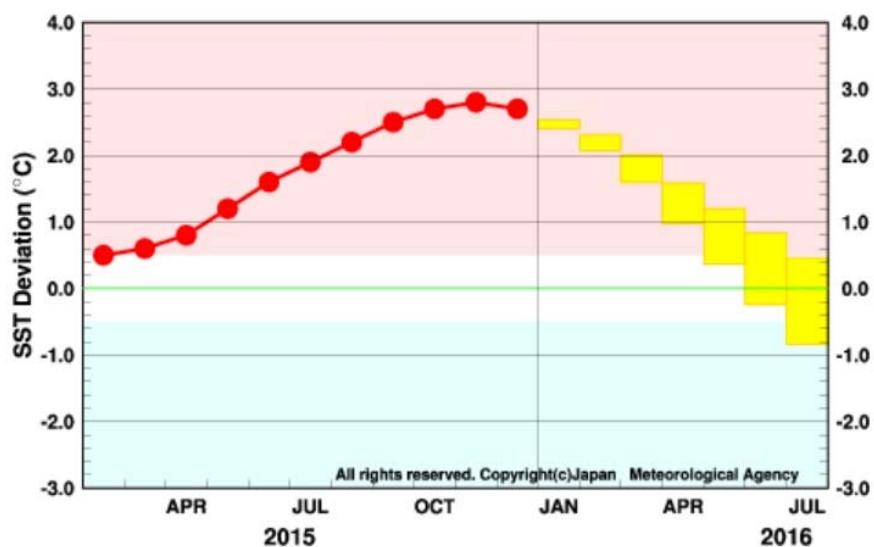


図4 エルニーニョ／ラニーニャ現象の経過と予測

エルニーニョ監視海域の海面水温の基準値との差の5か月移動平均値（指数）の推移を示す。12月までの経過（観測値）を折れ線グラフで、エルニーニョ予測モデルによる予測結果（70%の確率で入ると予想される範囲）をボックスで示している。指数が赤／青の範囲に入っている期間がエルニーニョ／ラニーニャ現象の発生期間である（気象庁地球環境・海洋部，エルニーニョ監視速報 No. 282 より）。